

ジイジ・バアバ、
パパ・ママへ贈る

アヤと過ごすジイジの日記

心のめばえ

<7>

著者／牟田 泰三
挿絵／橋本 礼子

2歳8カ月

ママ……？

ママがお買い物に行くのでジイジのお家でお留守番をすることになった。お魚さんの絵本を見たり、DVDをプレーヤーにかけてワンワンやコッシー（腰かけ君）の動画を見て、しばらく機嫌良く遊んでいた。ジイジもバアバも孫との楽しいひとときを楽しんでいた。ところが、何かの弾みで

「ママ……」

と言って窓の外を指さし始めた。ジイジもバアバも

「どうしたの？」

と言うだけで、意味が分からない。バアバは

「あ、そうか、お外に出たいの？」

と言うと、だっこして外に連れ出し、お花を見せたり蝶々を追っかけたりするが、そのうちとうとう泣き始めたので、すっかり困って部屋に戻ってきた。

そこでジイジはアヤを抱きしめてソファアに座り、テレビ画面を眺めていると、だんだん泣き声も静まってきた。



アヤがもしお話しが出来るのであれば、きっと「ママがお外に出かけてだいたい時間が経つけど、今頃何をしているのかな」とジイジやバアバに話しかけたかったのではないだろうか。

まだ片言しか言えないから、自分で出来る最大限の工夫をして、お外を指さしながら「ママ……？」と表現したのである。それをジイジもバアバも分かってくれない。それどころか誤解してお庭に連れ出したりする。それでイライラして泣き出してしまったのだ。

ママに早く帰ってきて欲しいと言って泣いていたのではなくて、自分の意志がうまくジイジやバアバに伝わらないことが悔しくて泣いていたのだ。その証拠にその後でママが帰ってきたら、別段いつもと変わったことはなかった。

では、「ママ……？」と言って外を指さしたときにどうすればよかったのだろうか。言葉は通じないにせよ「ママはもう少しお買い物するからね。もうちょっと遊んでいようね」と言ってアヤを抱きしめてやるしかなかったのじゃないだろうか。

一般に言えることであるが、乳幼児が泣いているのは悲しいからだけではない。淋しい、お腹がすいた、お漏らした、悔しい、不満だ、気分が悪いなど、いろいろなことを泣くというひとことで表現しようとしている。大人はそれをできる限りの確に察知して対応してあげる必要があるが、なかなか難しいことである。

アヤは、「ママは今頃どうしているのかな」とジイジやバアバに語りかけようとして、自分が持っている数少ない語彙の中から単語「ママ」を選び出して、「ママ……？」と言って窓の外を指さしたのである。「指さし」という動作も幼児にとってはコミュニケーションの強力な道具である。アヤが持っている最大限の手法を駆使してジイジやバアバとお話ししようとしたのに、ジイジもバアバも全く分かっていないのにいらだって、泣くという最後の手段に出たのだ。

大人たちは、ともすると、教育熱心のあまり、あれこれと教えようとするが、実を言うと、その前にもっと大切なことをするべきだと思われる。幼児の暗黙知の世界を押し量り手探りしながら適切なコミュニケーション方法を探し出す努力をするべきなのだ。

幼児の暗黙知の世界をどこまで感じ取つてやれるか、勘を頼りに探っていくしかない。幼児が暗黙知の世界から形式知の世界へ移っていく過程を見守っていくのは素晴らしいことだ。

ジイジへのお便り

エッセーを読んだ感想などを、お寄せください。
weekly@pressnet.co.jp
「心のめばえ」係

プロフィール むたたいぞう 1937年、福岡県生まれ。
九州大学理学部卒業、東京大学大学院物理学専攻修士、
理学博士。京都大学助手・助教授、広島大学教授・学長、福
山大学学長などを歴任。主な著書に「語り継ぎたい湯川秀
樹のことば」（丸善出版）、「電磁力学」（岩波書店）、「量子力
学」（裳華房）などがある。東広島市在住。